

キャラクター名
近衛 正仁 (このえ まさひと)

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ ノイマン		ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	秘書
	オプション		年齢	23	性別	男
覚醒	探求	衝動	破壊	初期侵食率	34	%
出自	待ち望まれた子	経験	大転落	邂逅	師匠	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	2	0	0			2	行動値	7
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	7
精神	4	1	0			5	戦闘移動	12
社会	1	0	0			1	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	2		RC	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識:	2		情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
小型浮遊砲 (アウレリウス)	射撃	1r		5		対象の装甲値を無視する
ロックオンサイト		2				射撃の達成値+2
リアキャノン (ロムルス)	射撃	1r		8		対象のドッジの判定を-2する
リアキャノン (レムス)	射撃	1r		8		対象のドッジの判定を-2する

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: 情報屋	
コネ: マスメディア	
コネ: UGN幹部	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
達人 (アデプト)	P	N		
浅倉なな	P 友情	N 不安		
家族	P 純愛	N 嫌気		
玉野 椿	P 尊敬	N 嫉妬		
稲川 優介	P 信頼	N 侮蔑		
淡輪 太陽	P 同情	N 不快感		
神城 太陽	P 庇護	N 不安		

最大財産P: 4 残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト:ノイマン	3	2	メジャー					
効果:	C値-Lv分。下限値は7							
ハードワイヤード	5		常時	至近	自身	自動		
効果:	身体が機械化されている。侵食率+4							
コントロールソート(射撃)(達人)	1	4	メジャー	武器		対決		
効果:	このエフェクトを組み合わせた判定は【精神】で行える。達人の効果あり。							
マルチウェポン	5	3	メジャー	武器		対決		
効果:	同じ技能で扱う武器の攻撃力と効果を合計して適応する							
ヴァリアブルウェポン	1	3	メジャー	武器		対決	リミット	
効果:	武器の効果、攻撃力を合計して適応する							
コンバットシステム(射撃)	3	3	メジャー/リアクション			対決		
効果:	Lv+1個ダイスを足す							
エクスマキナ	3	4	メジャー/リアクション			対決	リミット	
効果:	判定値を+10 回数はLv分							
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

歴史の古い家に生まれた。いい教育を受けさせてもらったので育ちはいい。しかし、そんな家庭環境をちょっと窮屈に感じていた。そんな何ん自由ない生活を送っていたある日、こんなうわさを耳にする、「人間の力の限界を超える方法がある」と。決められたことをただこなすだけの毎日に退屈していた正仁は、コネなどを頼って情報を集める。レネゲイドウィルスについて調べていると、そのことがUGNにばれてしまい、追われるようになってしまう。ついにUGN日本支部の人間に見つかってしまい、彼らから逃亡する中で事故にあってしまった。目が覚めたらそこはUGN日本支部の医務室で、自分はオーヴァードになっており、半ば強制的にUGNエージェントとして活動することとなった。なので、UGNのことはあまり好きではない。大学卒業後は、ノイマンのブリードのおかげで処理能力が非常に高かったため、そこに目を付けた知り合いの社長が秘書として雇ってくれて、その仕事をしながらエージェントとして活動している。

なお、事故の影響で両ひざから下は機械化されていて、浮遊するリアキャノンを足に一門ずつ装備している。さらに、もう一門浮遊する砲台を装備していて、それは背中に装備してある。最後の一門も背中に隠すように装備してある。これらの砲台は浮遊して自在に操れる。